



東京学芸大学附属国際中等教育学校

第7回 公開研究会のご案内 (第2次)

知の統合を生み出す探究的な学び
—国際バカロレアの教育システムを活かした教育実践—

令和2(2020)年10月吉日

各位

新たなウイルスの出現により、地球規模の課題がより複雑化・深刻化しています。私たちがこれらの課題と正面から向き合うために、「知の統合」の必要性はさらなる高まりを見せています。現代の課題の本質を理解し、それらの課題に対峙できる人を育てることを使命とする本校が、国際バカロレアの手法を用いながら、どのような教育実践を行っているのかをこの機会に是非ご覧いただき、ご指導ご助言を承りたくご案内します。

感染拡大防止のため Zoom によるリモート開催となりますが、生徒たちの課題研究の発表もご覧いただけます。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

東京学芸大学附属国際中等教育学校長 荻野 勉

期日	令和2年11月21日(土) 13:00~16:00
会場	オンライン(事前公開・Zoom)
後援	東京都教育委員会 練馬区教育委員会
主催	東京学芸大学附属国際中等教育学校



UNESCO Associated Schools

OPEN

第7回 公開研究会 令和2年11月21日(土) 当日のスケジュール

12:30~	13:00~13:20	13:20~14:20	休憩	14:30~16:00	終了
Zoom入室開始	校長挨拶 全体提案	「共通授業」協議会 事前にご視聴いただいた、本校における「知の統合」の視点を踏まえた授業について、全体で協議会を行います。		「授業協議会」 事前にご視聴いただいた授業ごとに分かれて、授業協議会を参加型で行います。	

事前	参加申し込み (web上にて受け付けます。詳細は裏面をご覧ください。)
	授業動画の視聴 「共通授業」協議会の授業動画 参加予定の「授業協議会」の授業動画
	課題研究生徒発表(グローバル部門・SSH部門)の視聴 本校生徒による課題研究の発表を、オンラインにて開催いたします。 11月上旬に公開する研究発表動画をご視聴いただき、コメントやアドバイスを頂ければ幸いです。
	事前アンケートにご協力ください。

事後	事後アンケートにご協力ください。
----	------------------

本校研究部より

本校では、「国際バカロレアの趣旨に基づくカリキュラム・マネジメント」を校内の研究テーマとし、研究グループ*や教科会等で研究を重ね、教育実践を行っております。カリキュラム・マネジメントの中では、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、教育内容を組織的に配列することが求められています。国際バカロレアの教育システムの導入により、すべての教科科目で共通の単元設計のイメージを持つことが、本校におけるカリキュラム・マネジメントの土台となっています。つまり、ATL(学習の方法)、重要概念、グローバルな文脈等を、教科間・学年間の共通のキーワードとして使用し、資質・能力等の共通性や固有性の視点から学習の転移を目指す探究的な学びを実践しております。

今日の教育でカリキュラム・マネジメントが求められる背景として、今後変化の激しい社会の中で、複雑化した現代的課題に向き合っていくためには、様々な資質・能力や知の統合が求められています。例えば、現代社会は環境問題やエネルギー問題のように「科学によって問うことはできるが、科学によって答えることができない課題」に直面しており、これらに向き合うには、科学だけで得たものではなく、様々な資質・能力や複数の知の統合が不可欠でしょう。

IBと学習指導要領の考え方を共に活かす教育実践を行っている本校からの提案として、第7回公開研究会では、IBの趣旨に基づくカリキュラム・マネジメントの成果ともなる「知の統合を生み出す探究的な学び」に向き合う生徒および教員の姿をご覧ください。

*研究グループ：同一学年の授業をもつ異教科の教員で構成される教員グループで、資質・能力等の共通性や固有性の視点から学習の転移をめざす授業研究を行っています。

『私たちは何によって未知の複雑な事象を知り得るのか ～語りの再構築からとらえる(関係性)～』【3年(中3)】

指導助言者：西村圭一 教授(東京学芸大学)

授業者：杉本紀子(国語) 松本侑樹(社会) 高橋広明(数学)
鮫島朋美(理科) 久保達郎(外国語) 渡津光司(技術)

授業者より：異なる視点からの語りは、どのようにしてそれらの関係性を人々に示し、その事象の理解につながるのか。私たちは、共有する重要概念を「関係性」と設定した。共通授業では、国語における『苦海浄土』の読解を軸として、「水俣病」について、社会・数学・理科・外国語・技術の授業を通してあらゆる視点から学ぶ。

水俣病に関わる様々な立場からの語りを知ることにより、生徒たちは水俣病に向き合い、知を統合していく。これまでの自分たちの理解や態度が揺さぶられ、この問題の複雑さや葛藤が浮き彫りになっていくであろう。中学3年生として、今「水俣病」について伝えるべきだと考えたことを、異なる立場の人の「語り」を再構築することにより表現していく。人間にとっての公平性とは何か？真に豊かな社会とはどのような社会か？を探究していく学習活動となる。

事前公開動画では、6教科を統合した単元全体の様子がわかる授業動画と、各教科での取り組みの様子がわかる授業動画を準備する予定である。生徒たちの学びが結びついていく様子を、是非ご覧いただきたい。

『環境問題は定量できるか？[SSH]』【5年(高2)】

指導助言者：中野幸夫 准教授(東京学芸大学)

授業者：笹岡聖也(化学基礎)

授業者より：近年、環境や人体への影響が懸念されているエアロゾルを題材とし、化学反応式と物質量の関係性の学習を深めていく。窒素から窒素酸化物を経て、大気中での光化学反応(サイクル反応)により多量にオゾンを生じ、さらに大気中に存在する揮発性有機化合物との反応でエアロゾルを生成する過程を実際に体験することで、人間の活動が環境に与える影響について多角的に議論を重ねていく。

授業動画では、実験を経て、化学基礎で学んだ物質量の概念を環境問題と統合させ議論する生徒の様子を、ご覧いただきたい。

『問いを立てる、対話で深める ～多角的な視点の獲得～』【6年(高3) DP】

授業者：嶽里永子・小林万純(TOK知の理論)
Ben Smith(English A) 小松万姫(English B) 山本勝治(歴史)
嶽里永子・Andrew Knowles(Visual arts)

授業者より：DPの授業では、様々な場面で協働的な学びを通して生徒の思考力が高まっていく様子が見られる。

事前公開動画では、生徒がどのような問いを立て、対話によってどのように議論を進展させ、多角的な視点を獲得し、「知の統合」を実現しているのかご覧いただきたい。そしてDPの2年間でどのように学びを深めていくのか、協議していきたい。

『IDUの枠組みで構成する教科等横断的な授業 ～重要概念「Logic」に焦点を当てて～』【2年(中2)】

指導助言者：藤野智子 准教授(東京学芸大学教職大学院)

授業者：新井健使(数学) 川上佑美(理科)

授業者より：カリキュラム・マネジメントの中では、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、組織的に配列することが求められている。またIBでは、知の統合を目指したシステムとしてIDU(学際的単元)がある。

今回、2学年での数学と理科の授業における「Logic」の概念形成と、総合的な学習の時間における知の統合の場面について公開する。統合する知としてIBの重要概念「Logic」を設定し、各教科の固有性を生かしながら授業を行った。最終的に各教科の「Logic」を、総合的な学習の時間において統合することを試みる。

『知の統合が拓く「育てたい生徒像」の実現』【6年(高3)】

授業者：小林廉(数学Ⅲ) 藤木正史(国際協力と社会貢献)
山根正博(現代文) 西村諭(古典B) 他

授業者より：本校は「育てたい生徒像」として(1)現代的な課題を読み解く力を持った生徒(2)知識とイメージを自分で再構成する力を持った生徒(3)対話を通して人との関係を作り出す力を持った生徒(4)異文化への寛容性・耐性を持った生徒、という4つの生徒像を共有している。これらの生徒像は、知の統合によって実現される。そして、最高学年である第6学年は、この生徒像をもっとも体現する存在である。

第6学年グループでは、育てたい生徒像は育成されているのか、育成されているならその要因として何が効いているのかを研究の問いとし、「知の統合」が「育てたい生徒像」の実現にどのように効いているのか、その一端を明らかにしたい。事前の動画では、本研究成果の一部を公開する。当日の協議会では、「知の統合」の実際について協議したい。

申し込みからの流れ

1. 申し込み

- ・右のQRコードから、もしくは学校HP(下記)にアクセスいただき、お申込みフォームにご入力ください。今回は Web からの申し込みのみ受け付けます。
- ・お申込みいただいた方のみ、メールでお送りするURLから授業動画の視聴が可能となります。
- ・授業動画の公開は11月9日頃を予定しております。事前に授業動画をご覧いただきながら、21日(当日)の協議会にご参加いただきたいので、11月18日頃までにお申し込みをお願いいたします。



2. 授業動画の視聴と事前アンケートの回答

- ・動画公開後、各自で授業動画を視聴してください。

* 動画視聴の際には、以下につきまして遵守していただきますようお願い申し上げます。

本校は、公開研究会への参加者が以下の行為を行うことを禁止します。

- 動画(音声を含む。以下同様)をダウンロードすること
 - 動画に、本校が不正と認める方法でアクセスすること
 - 動画を不正使用すること
 - 動画やキャプチャ画像を SNS など Web 上にアップロードすること
 - 動画を有償無償問わず第三者に譲渡又は貸与すること
 - 動画の全部又は一部を改変・改編・翻案・翻訳等し、二次的著作物を作成すること
- ・共通授業、学年別授業ともに必ず事前に視聴していただくようお願い致します。(各授業の詳細は内面をご覧ください)
 - ・動画公開のご連絡と共に事前アンケートをお送りしますので、動画視聴後に回答をお願いします。事前にご質問いただいた内容をもとに協議を進行します。



3. 公開研究会への参加

- ・事前送付する Zoom の URL にアクセスいただき、公開研究会にご参加ください。
- ・当日は 12:30 より入室可能です。所属先とお名前を表示いただき、ビデオをオンにしてご参加ください。



4. 事後アンケートの回答

「事後アンケート」への回答のご協力をお願い致します。

お問い合わせ先

東京学芸大学附属国際中等教育学校 研究部

〔電話〕03-5905-1326 〔メール〕kenkyu@tguiss.jp

〔学校ホームページ〕<https://www.iss.oizumi.u-gakugei.ac.jp>

〔住所〕〒178-0063 東京都練馬区東大泉 5-22-1